

2025年
12月7日 日

午後1時30分～3時

会場

喜多方市役所

大会議室 ホール棟
2階

参加無料 要予約
定員50名



予約はこちらにアクセス



studio COCCA 創設者
関根幹司が語る
障害者施設の役割

～ アート 人工から考える ～



画像協力：東京都渋谷公園通りギャラリー

関根幹司さん

studio COOCA 創設以前より障害者施設を運営しながら、長年障がいのある人々の「生きる」を支えてきました。彼の信念は「人はお互いを思いやり、支え合う『ケア』の存在によって、初めて真の人間になれる」です。ケアは、人から人へだけでなく、自然やアートといった私たちの生活全体に深く関わりを持っていると考えています。

関根さんの福祉との出会いは、イベントに来ていた障がいのある方の「こんなのつまんねえよ！」という率直な言葉でした。（こんな簡単に言っていないんだ!!）その後、障がいを持つ人たちのイラストのかわさから「これはお金になる」と、創作活動を仕事にした施設設置に至りました。

絵の具や材料の使い方一つにも、その人の表現が宿ると考え、常識にとらわれずに個性を伸ばすことを大切にしています。

スタジオ クーカ studio COOCAとは

当日のプログラム

文化芸術創造都市の説明

喜多方市では、市内の文化財や地域資源などを文化芸術の持つ創造性と組み合わせて、喜多方を元気な街にしていくな「文化芸術創造都市」を推進しています。

関根幹司さんの講演

1990年代「障がいとアート」に関わり30余年。関根さんの目から、今の流れがどのように見えているのか。「障がい」と「アート」が合わさる意味を語ってもらいます。

「障がいとアート」事業概要

障害者文化芸術推進法が2018年に施行され、全国的に障がい者と創作活動に関する話題を聞くようになりました。喜多方市の取り組みを紹介します。

障害者週間展示へのご案内

毎年開催される、施設の活動をお知らせする展示です。展示には障がいを持った方々の作品も含まれています。講演後に得られた視点を持って、ご覧ください。

生活介護、就労継続支援B型事業所で、障がいのある人たちが自由に表現しながら働くことのできるアトリエです。活動内容は絵画やイラスト、立体作品の制作・展示にとどまらず、演劇やダンス、音楽などのパフォーマンス、さらには商品企画や販売、企業とのライセンス契約など、多岐にわたります。スタッフと利用者が対等な関係で関わりながら、「自分を生かすこと、社会で生きること」こと一緒に考える場になっています。

同時開催イベント

障害者週間の施設活動展示



障がい福祉の理解啓発および障害福祉事業等の活動を紹介しています。市内で福祉活動を行っている施設、団体が参加しています。

【予約方法】

ホームページから：<https://logoform.jp/form/j6SV/1133393> または表面 QR コードにアクセス。

電話から：0241-24-5323(文化課)にお電話いただき質問事項にお答えください。